

第1日 送りがない・返り点

■解答

- 1 但見涙痕湿。  
 (1) 但見涙痕湿。  
 (2) 輕舟已過方重山。  
 (3) 疑 是地上霜。
- 2 (1) 3 2 1 4  
 (3) 5 3 1 2 4  
 (4) 4 1 3 2  
 (5) 2 3 1 4  
 (6) 1 5 4 2  
 (7) 6 1 4  
 (8) 1 12 2 9 5 3 4 8 6 7 10 11  
 (9) 1 12 2 9 5 3 4 8 6 7 10 11  
 (10) 1 12 2 9 5 3 4 8 6 7 10 11
- 3 (1) 2 1 4 3  
 (2) 1 5 3 4  
 (3) 1 8 2 5 3 4 6 7  
 (4) 5 2 3 1 4  
 (5) 1 8 2 5 3 4 6 7  
 (6) 5 2 3 1 4  
 (7) 6 1 5 2 4 3  
 (8) 6 1 5 4 2 3  
 (9) 7 4 3 1 2 6 5
- 4 (1) 少年易老学難成。  
 (2) 覆水不返盆。  
 (3) 有陰德者必有陽報。  
 (4) 百聞不如一見。  
 (5) 他山之石可以攻玉。  
 (6) 士不可不弘毅。  
 (7) 桃李不言，下自成蹊。

- 2 返り点に従い読む時は、「二」は「一」の次、「下」は「上」「中」の次という原則に従うことだけを考える。
- 3 レ点の場合はレ点一つで一文字返る、一二点の場合は二文字以上返る、上下点はいだに一二点が必要入る、などに注意。  
 (1)・(2) レ点を使う。  
 (3) ④から⑤へは一二点。  
 (4) ①から②へはレ点、③から④へは一二点。  
 (5) ③から⑤へは一二点。⑥⑦から⑧へは上下点。  
 (6) ①から②③へは、②と③を熟語棒でつなぎ、一二点。④から⑤へは上下点。  
 (7) ③④から⑤へは、④と③の間にレ点を使い、一二点を「三」まで使って⑤⑥に返る。  
 (8) ②③から④へは一二点。④⑤から⑥へは、⑤④の間にレ点を使い、⑥に「二」をつける。  
 (9) ①②から③へは一二点。③から④へはレ点。⑤⑥から⑦へは、⑥⑤の間にレ点を使い、⑦に「下」をつける。  
 ④ 「若者は老いやしく学問は成就しにくい。」レ点を使う。  
 (2) 「一度こぼれた水は二度と盆には返らない。」レ点を使う。  
 (3) 「人に知られない善行のある者には必ず天の授ける幸福がある。」一二点を使う。  
 (4) 「百回聞くことは一回見ることに及ばない。」レ点と一二点を使う。  
 (5) 「他の山の粗末な石でも、自分の持つ宝玉を磨くのに役立つ。」「攻玉」のところでレ点を使い、一二点で「可」へ返る。  
 (6) 「優れた人物は忍耐強くなければならない。」一二点を「三」まで使って「可」まで返り、「不」へはレ点で返る。

- (8) 一篇一詠贈炙人口。  
 (9) 不知其能千里一食上也。  
 (10) 瓜田不納履、李下不正冠。  
 (11) 孤極知燕小、不不足以報。  
 (12) 妨害治民者也。  
 (13) 如揮快刀、斷亂麻。  
 (14) 聞大王有意督過之。

■今日の学習の解説

訓点のない文を白文という。ふりがなは訓点ではない。  
 送りがない 送りがないは教科書や参考書によって異なる(例「以・以」「亦・亦」「豈・豈」「用・用」など)。「益々」「各々」の「々」は踊り字といい、使わないこともある。

返り点 熟語を示す「一」を「熟語棒」と呼ぶこともあり、返り点に従い下から返って読む熟語を示す場合に用いる。熟語棒を使わないこともある。熟語が三字・四字の場合は次のように返り点をつける。

三字 ②③④ ① 四字 ②③④⑤ ①

■解答の解説

- 1 (1) 「ふ」と見ると、涙の痕が濡れたまま。  
 (2) 「スピードのある小舟はもう通り過ぎてしまった、幾重にも重なる山のあたりを。」  
 (3) 「もしかしたら地上におりた霜なのか。」「疑」の「らく」は、完了・存続の助動詞「り」の未然形+準体助詞「く」の形。「了」したこと、了していること」の意。「疑ふ」の活用形が合わないが、慣習としてこのように読む。

- (7) 「桃やすももは人を招くことはしないが、(その花や実のために)人が自然と集まるものだ。」レ点を使う。  
 (8) 「詩の一編一編が広く世間の評判となる。」「膾炙」を熟語棒でつなぎ、一二点を使う。  
 (9) 「その能力が一日に千里を走るものを知って養っているのではない。」「里」から「知」へは一二点、「食」から「不」へは上下点。  
 (10) 「瓜畑では(瓜を盗んで靴の中に隠したと疑われるから)靴をはき直さない、すももの木の下では(すもものを盗んで冠の中に隠したと疑われるから)冠をかぶり直さない。」レ点を使う。  
 (11) 「私は燕国が小さくて(斉国に)復讐するほどの力はないとよく知っている。」「報」から「足」へは一二点、「不」へはレ点で返るが、すぐに「知」へ返るので、レ点を使う。  
 (12) 「人々を(正しく)統治するのを妨害するものである。」「民」から「治」へはレ点で返るが、すぐ「妨害」へ返るのでレ点。「妨害」の間に熟語棒を使い、「治」からは一二点で返る。  
 (13) 「鋭い刀で乱れた麻を断ち切るようなものだ。」四字熟語では「快刀乱麻。」「快刀」から「揮」へは一二点。「乱麻」から「断」「如」へは上下点を「上・中・下」と使う。  
 (14) 「大王にはこの人を過ちを犯したと責めるつもりがあると聞いた。」「督過」には熟語棒をつけ、一二点を「三」まで使い、「意」まで返る。「意」から「有」へはレ点で返るが、すぐ「聞」へ返るので、レ点を使う。